

11月8日(火) 金沢 NH 銀扇において第 1497 回第一例会が開催されました。

会長スピーチでは、「東京出張の折、市井の状況がコロナ前のように感じられたが、感染対策をしっかりしながらクラブ運営をしていきたいので皆さんのご協力をお願いします。チャーターナイト 62 周年、10月30日(日)の同日に開催された 2 つのアクティビティ“大垣 IC 合同 U9 フットサル大会”と“金沢マラソンボランティア”に関して、多くの事業にご参加、ご協力いただけたことに感謝いたします。また、11月では、大垣 IC との交流アクティビティやほほえみフェスタが控えており、皆様のご参加で進めていきたいと思えます。」と話され、ク



ラブの結束についての謝意がありました。続いて、「自宅の柿山で実った渋柿が、過去、野生の熊に一山食べられてしまったことがあり、それが原因なのか、熊による里への被害がなかったのではと思います。」と話され、そのような縁起の良い酎し柿を全クラブメンバーにおみやげとして配られた。最後に、趣味である読書に関して書籍のご紹介。“生物はなぜ死ぬのか”に触れ、「原初の生物は細菌、バクテリアであるが、それが発生する確率は、“水を張った 25M³ グールに、腕時計の全ての部品をバラバラに投げ入れて攪拌し、それらが自然と元通りに組み立てられ、正常動作する。”といった、奇跡的なものである。そのような奇跡の上に我々の生活が成り立っていることを思えば、戦争や疫病をはじめ、日々の些細な静いまで、様々な物事を高次の視点でとらえて考えていくことができ、そうした(ネガティブな)こともいずればなくなっていくのではないかと思う。」と述べられました。

続いて、社会奉仕委員長の稲葉 L より、～ランドセルは海を越えて～ネパールのランドセル贈呈式の報告があり、その様子を写した動画をメンバーで鑑賞。珍しいイベントの中、緊張した表情を浮かべていた子供もいたが、ランドセルを受け取ったあとは、とても喜んでるように見受けられました。



青少年育成委員長、高藤 L より、10/29、30 の二日間にわたって行われた U9 フットサル大会について、12 チームの総当たり戦で、当クラブからは 37 名のメンバーの参加協力があり、結果、城北が優勝。次の大垣 IC との姉妹提携による大会が控えていると報告がありました。

中村第二副会長より、10/30 に行われた金沢マラソンについて、当日は 16 名参加で 5:30 より四高記念公園に集合、ランナーの手指消毒、装備品、体温のチェックを行った。当日は天候にも恵まれ、滞りなく活動を終えることができましたと報告がありました。

中田幹事より、来る 11/26(土)、泉野総合体育館にてほほえみスポーツフェスタの案内、続いて堀岡姉妹提携委員長より、11/26(土)の大垣 IC 合同フットサル大会の案内がありました。



ゲストスピーチでは株式会社金沢商業活性化センターの近藤史彦氏にご講演をいただきました。同センターの目的は中心市街地活性化であり、「金沢市中心市街地活性化基本計画」に基づく事業を行っている。①まちなかの定住者をふやす②ウォークブルなまちなかを形成する③公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える④歴史文化資産を活かし、市民・来街者を引き付ける。この 4 つの主計画に基づいて、人口推移、新規出店数、バス乗客数、文化施設利用者数、外国人客数などから、数値目標を掲げている。具体的な事業には、大型ショッピングモールと商店街のすみわけ、商店街同士の



連携、非収益事業の自立化、プレーゴの運営、ショッピングライナーまちバス、まち P、まちナビの発刊、まちなか出店サポートセンターの運営によるまちなかトライアル出店支援、中心商店街大型商業施設テナント誘致支援事業、新型コロナウイルス対策テイクアウトマップの発刊、テイクアウトステーションの企画立案運営、金沢バルの開催など、地元で密着しながら、地域活性の推進に大きな役割を担っており、今後は、日銀跡地の活用、片町商店街、アフターコロナのインバウンド向け施策、観光客だけではなく、地元の顧客に対するイメージアップ、買い物環境の充実化、広域集客策、エリアの魅力向上など、多くのテーマが控えているとのことでした。

会の締めくくりとして、嶋崎テールツイスターより、ドネーションの発表と、「割りばしがくつついているのはなぜか」「つまようじの頭はなぜ黒くなっているか」の出題があり、和やかな雰囲気の中、閉会ゴングが鳴り、クラブメンバーは会長の柿を手笑顔の閉会となりました。

(計画委員会 記事)